

大里小だより

臨時号

令和3年10月13日

全国学力・学習状況調査(5/27実施 6年生)の結果について

国語（全14問）の平均正答数をみると、本校は全国平均に比べ1.3問少なく、算数（全16問）の平均正答数も、本校は全国平均に比べ1.2問少ない結果でした。両教科とも、もう1問正解してほしいところです。もう少し我々教員は頑張らなくてはなりません。

質問紙調査に、

「国語・算数の勉強は好きだ」

「国語の授業の内容はよく分かる」

「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしている」

「算数の授業でしたことを、普段の生活の中で活用できないか考える」

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と積極的に肯定した本校児童の割合は、全国より高い結果でした。本校の児童はとても学習に前向き（ポジティブ）であることに感心しました。

さらに、

「授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」

「タブレットを、他の友達と意見交換したり調べたりするのに、よく使っている」

と肯定した本校児童の割合も全国より高いことから、児童に高い満足度をもたらしている本校の教員もよくやっているといます。



しかし、児童の満足度が学力に結びついていないのが残念です。我々教員は授業の質を問い直し、児童に応えてやりたいと思いました。そのため結果を分析し、どの学年でも大事に取り組んでいくこととして、次のことを確認しました。

国語については、例えば「スピーチの構成を考えながら、どのような資料を用いると効果的か」を学習するときには、学んだことを生かして一人ひとりが実際にスピーチ原稿を

書き、資料を提示しながらスピーチをするまで経験させることで、児童の教科書での学びがより深まります。どの学年においても、一人ひとりが経験を積むことを大事に学習していきます。

また、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディチェック」で出題される、解答を「条件に合わせて書く」という問題は、問題に慣れていないことによる誤答の割合が高いので、授業で同じような出題の仕方をしたり、学年に応じて県から提供されている問題集から宿題を出したりして、経験を積ませていきます。

算数についても、分かったつもりで終わらず、より児童の理解を深めるために、児童の説明の曖昧な点は何度も問い直したり、個々の児童がノート等に必要な説明を漏らさず書けるようにしたりすることを、授業の標準にしていきます。

他の教科の学習についても、「何を学んだかではなく、どのように学んだか」が肝心なので、「探究的な学習過程」と「他者と協働して主体的に学ぶ」ことを経験できるようにしていきます。

ところで、児童への質問紙調査によって分かった、本校児童の強みや弱みの傾向があります。

「自分にはよいところがある」

「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」

「人の役に立つ人間になりたい」

と思える本校児童の割合が、全国より高い結果でした。

これは、【自分にはよいところがある。だから、失敗を恐れないで挑戦する気持ちになれる。また、人の役に立つ人間になりたいと思える。】このように結びつくと思います。自分を肯定できることは、何をするにも大切な土台となります。これまでご家庭と地域と学校とで、児童の中に育ててこれたと考えています。

一方で、

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」

という質問に対して、肯定的に答える本校児童の割合は、全国より低い結果でした。

せっかく「自分にはよいところがある」と思える土台があるのに、友だちに遠慮してか、波風を立てたくないのか、自分の意見を主張しない、友だちの意見にからまない傾向があると思います。

これでは児童のもつよさが伸ばしきれません。我々教員は授業のみならず学級会等、学級活動を大切に、社会に出ても堂々と意見を述べられる大里の児童であるように経験を積み、育てていきたいと確認しました。